

タフな環境が、
今の自分のベースを
作ってくれました。

エネルギー総合工学コース



就職先 | いすゞ自動車株式会社

片山 悟さん(北海道中標津高等学校出身)

機械工学科 2013年度卒業 /
機械工学専攻 2015年度修了

北見工大では機械工学科(現・エネルギー総合工学コース)でエンジンの研究を行っていたこともあり、現在はいすゞ自動車です。ディーゼルエンジンの開発や試作品の耐久評価、強度解析などの業務に携わっています。

取り扱っているエンジンはタフな環境での使用が想定され、耐久性など乗用車のエンジンとは違った視点でのものづくりが求められます。

北見工大は寒冷地に特化した研究が多くあり、厳しい自然環境での工学研究は大変意義のあるもので、今の仕事にもその経験が生きていると実感しています。

そのほか実際の現場でも、大学での講義の内容が仕事に活かされる場面は多く、いまだに学生時代に覚えた内容を振り返っています。また、組織の中で働くには、論理的な思考能力と周囲とのコミュニケーションも大切。北見工大での4年間では、工学の知識だけでなく、仲間や教授、自然豊かな環境を通じて一人の人間として成長させてくれる場もありました。

仕事は、一生勉強。
自律型思考と
チャレンジ精神を胸に、
もっと住みよい未来づくり。

環境防災工学コース



就職先 | パシフィックコンサルタンツ株式会社

伊藤 朱花さん(札幌日本大学高等学校出身)

社会環境工学科2017年度卒業 /
社会環境工学専攻 2019年度修了

大学では社会環境工学を専攻し、大学院では河川防災に関わる研究を通して、土木や自然環境に幅広く関心を抱くようになり、その調査・研究、設計に携わることができる総合建設コンサルタントへの就職を目指しました。

現在はパシフィックコンサルタンツ株式会社の上下水道部に所属し、各地の水道施設や浄水場の計画や設計に関わる業務を行っています。会社選びは、自律型思考で個人の意見を尊重してくれる企業の懐の深さに感銘を受けたことがきっかけでした。もちろん仕事は1人では行えませんが、言われたことをこなすのではなく、プロジェクトを成功させるにはどうしたらよいかを考えながら働けることに日々やりがいを感じています。

社会では、聞く力や提案力、学んできた知識の応用力がなければ、よい仕事はできません。その点では、大学や大学院での授業や学会発表を通して、わかりやすく説明する能力を養えたことは私にとってのプラスになりました。

北見工大は社会環境工学を学ぶには絶好のキャンパスだと思っています。教授との距離も近く、同じ志を持つ全国から集まる仲間もたくさん。人との関わりを大切に、色々なことに挑戦する気持ちを養ってください。

諦めない。妥協しない。
あらゆる技術は
お客さまのためにある。

先端材料物質工学コース



就職先 | トヨタ自動車株式会社

印藤 佑一さん(北海道富良野高等学校出身)

マテリアル工学科 2012年度卒業 /
マテリアル工学専攻 2014年度修了

人とクルマをつなぐ、HMI(Human Machine Interface)技術開発を中心に、自動車の周辺監視支援・駐車支援制御の仕事に携わっています。在学中に専攻していたマテリアル工学と、自動車における電子・制御の分野は学問領域が異なりますが、専攻の基礎知識を広い視点で応用するスキルを北見工大で身につけたことが今の仕事に役立っています。

また、卒業研究に取り組む過程で、課題に対してどのように解決するかを考える力が磨かれました。これは、エンジニアとして重要なスキルだと実感しています。

私たちエンジニアが忘れてはいけないのは、あらゆる技術は、お客さまのためにあるということ。どんなシステムがお客さまにとって喜ばれるのかを考え、実際にカタチにする。その道のりが容易ではないところに真のやりがいがあります。

課題に立ち向かい、諦めない。妥協しない。その継続が製品の品質向上につながるのだと思います。

幅広い学びがチカラと
なって今の自分に
つながっている。

機械知能・生体工学コース



就職先 | 紋別バイオマス発電株式会社

杉本 洋也さん(北海道滝上高等学校)

電気電子工学科 2016年度卒業

北見工大では旧電気電子工学科に在籍していました。入学当初は、電化製品や電子機器を分解、カスタマイズすることが好きだったので、将来はそのような業種に携わりたいと考えていました。しかし、大学には様々な講義があり、それまで興味なかった分野も実際学んでみると面白く、その結果好きだった電子機器関連ではなく電力会社に入社しました。現在は紋別バイオマス発電株式会で火力発電所のオペレーション、パトロール、メンテナンス、省エネ投資検討など運転管理業務を行なっています。仕事では複雑なプラントの特性を理解して、確実な操作を行うことが求められます。専門的な知識を学ぶ必要がありますが、大学時代に電気について広く勉強したことでスムーズに理解することができ、現在の仕事にも生かされています。忘れられないのは北海道胆振東部地震の日のことです。プラントの急変動に対応し、安定運転の継続ができたので大事には至りませんでした。もしあの時オペレーションを間違えてしまっていたら大きなトラブルを招いたかもしれません。電力供給という公共性の高い業務はプレッシャーもあります。でもそのやりがいも大きいです。大学生活を通じて地元で貢献できる仕事に出会えて本当に良かったと実感しています。

自ら行動して、進む。
本当にやりたいことを見つげるために。

情報デザイン・コミュニケーション工学コース



就職先 | 株式会社DNP情報システム

信太 結花さん (北海道釧路江南高等学校出身)
情報システム工学科 2013年度卒業 /
情報システム工学専攻 2015年度修了

イメージングコミュニケーション事業部のシステムエンジニアとして生産管理や工場管理に関わるシステムの開発・保守・運用に携わっています。

皆さんが目にするものとして挙げると、物流や食品包装資材のバーコードや日付印字は、当事業部が担当しているシステムです。普段はパソコンと向き合ってプログラムの修正をしていますが、自分が保守したシステムが工場で正常に動作して使われているのを見たとき、しっかりと現場で利用する人がいることを実感し、そのやりがいやまた頑張る糧となります。

自ら行動して進む。これは仕事を進めていくうえで重要な姿勢だと思います。研究室でお世話になった先生も行動的な方でした。研究室の先輩たちになりたいと憧れて、研究の面白さを知り、こうして本当にやりたいことを見つげられました。本当に大切なのは、大学で何をするか、どう過ごすかだと思います。

「女は度胸」。
積極的な姿勢が、
自分を大きく成長させる。

社会インフラ工学コース



就職先 | 日本工営株式会社

石田 樹里さん (青森県立黒石高等学校出身)
社会環境工学科 2015年度卒業

建設コンサルタントの仕事に携わっています。都市整備事業の立案から構想、地質調査、設計、維持管理まで、その業務は幅広く、私はシステム開発を行う部署に所属しています。

この仕事を選んだ理由は「考えること」が好きだからです。大学生活の中で、自分で計画し、検討、提案、実行することに面白みを感じるようになりました。

提案には専門の知識や技術が必要ですが、それを受け入れてもらうにはわかりやすい説明力も大切です。提案したものが受け入れられ評価をもらえると、嬉しいですし自信にも励みにもなります。はじめは戸惑うことも多かったですが、仕事の進め方を覚えていくうちに打ち合わせなどでも積極的に発言できるようになりました。できることが増えた分、課題もまだまだあると痛感することもあります。その時に思い出すのは学生時代の経験です。何かに挑戦することで、解決策が浮かんだり、別の道が見えてきたり、そういった経験値が仕事でも生きていくのだと信じています。

モノゴトを諦めずに、
最後まで追求する姿勢を
学びました。

バイオ食品工学コース



就職先 | 山崎製パン株式会社

鈴木 直之さん (岩手県立一関第一高等学校出身)
化学システム工学科 2009年度卒業 /
化学システム工学専攻 2011年度修了

学生の頃から食品業界で製品開発に携わりたいと考え、全国で展開し開発するチャンスも多い山崎製パン株式会社へ入社しました。製造部門は技術の進歩によって仕事内容が変わることが多く、柔軟に対応するのも重要なスキル。

技術は科学的根拠に基づいているので、北見工大での学びは職場でも大いに役立っています。

現在は洋菓子の製造部門を担当しています。食品は原料の多くが、温度などの環境の変化に敏感。毎日同じ作業をしているように見えても微妙な変化を加え、均質な味を追求するところに面白さがあります。学生時代に培った、疑問や問題を根本まで突き詰めるトレーニングをしてきたことが、今に生きているんだなとつくづく感じています。

自分が携わった商品をお客様が手に取ってくれる姿を見ると、この仕事を選び、学んできたことを思い出して「これまでがんばってきてよかった」と今でも思うことがあります。

目指すは、
クラフトビールで地域創生。
乾杯をもっと美味しい、
コミュニケーションに。

地域マネジメント工学コース



就職先 | 合同会社カンパイ日和

津川 渚奈於さん (秋田県立横手清陵学院高等学校出身)
社会環境工学科 マネジメント工学コース 2016年度卒業

クラフトビールの会社で醸造担当をしています。ビールの美味しさと出会ったのは、学生時代に語学研修で訪ねたドイツ。本場の味に魅了され、それ以来クラフトビールが好きになり、今では仕事にしています。

醸造の仕事は管理が大事です。ビールは出来上がるまで1ヶ月以上かかります。でも、どんな味になるかは完成するまでわかりません。出来上がりの味を想像しながらホップや麦芽の種類や使い方を決め醸造を行います。そして毎日の発酵管理、洗浄を丁寧に行っていきます。

自ら企画し、実現に向けた同僚との議論や計画、そして実行と、マネジメント工学コースでの学びがさまざまな場面で息づいています。

今後はクラフトビールを通じた地域創生や、各地の特産物を使ったビールの開発など、常にコミュニケーションを大切にしながら事業に関わっていきたくと思っています。

高校生の皆さんには、どんなことにも無駄な時間なんてないということを伝えたいです。その時は不安や疑問に思うことも、長い目で見ると必ず人生の役に立つはずですよ。